

## JICA の新たなビジョン

### 「世界を信頼でつなぐ」 (Leading the world with trust)

2017 年 7 月、JICA は新たなビジョン「世界を信頼でつなぐ」(Leading the world with trust) を決めました。ビジョンの改定は 9 年ぶりです。北岡理事長は、JICA ウェブサイト掲載の理事長あいさつの中で、最近の世界の動き、「持続可能な開発目標」(SDGs)、日本と JICA の役割等を述べた上で、新ビジョンについて次のように説明しています。

「・・・JICA は『世界を信頼でつなぐ』をキーワードに、新たなビジョンを決めました。信頼は、日本の開発協力の根幹をなす概念です。常に相手の立場にたって共に考える姿勢で臨む協力により、国内外の幅広いパートナーとの信頼を育む。人や、国、企業が持つ、さまざまな可能性を引き出し、より良い社会を築いていく。そして、人びとや国同士が信頼で結ばれる世界を作り上げていくことを、JICA は目指していきます。」

JICA は、ベトナムにおいても、この新ビジョンを実現するべく開発協力を行っていきます。

### JICA のビジョン

#### ミッション Mission

JICA は、開発協力大綱の下、人間の安全保障と質の高い成長を実現します。

#### ビジョン Vision

### 世界を信頼でつなぐ Leading the world with trust

JICA は、人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる、自由で平和かつ豊かな世界を希求し、パートナーと手を携えて、世界を信頼でつなぎます。

#### アクション Actions

1

#### 使命感 Commitment

誇りと情熱をもって、使命を達成します。

2

#### 現場 Gemba

現場に飛び込み、人びとと共に働きます。

3

#### 大局観 Strategy

幅広い長期的な視野から戦略的に構想し行動します。

4

#### 共創 Co-creation

様々な知と資源を結集します。

5

#### 革新 Innovation

革新的に考え、前例のないインパクトをもたらします。

詳細は、当機構の以下のウェブページからご覧いただけます。

・ JICA のビジョン : <https://www.jica.go.jp/about/vision/index.html>

・ 理事長あいさつ・活動内容 : <https://www.jica.go.jp/about/president/index.html>

# 今月のトピックス

成長と競争力強化

## 「ホアラック科学技術都市振興事業（Ⅱ）」 円借款貸付契約調印

国際協力機構（JICA）は、6月6日、ベトナム政府との間で、「ホアラック科学技術都市振興事業（Ⅱ）」を対象として、128億6,500万円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。

ベトナムは、高度な科学技術の蓄積を開発目標の一つとして掲げ、ハノイ市近郊のホアラック地区において、科学・産業技術集積拠点（ホアラックハイテクパーク）の整備を進めています。本事業は、研究開発機能、教育訓練機能等からなる同ハイテクパークの早期開発エリア（1,036ha）を対象として、基礎インフラを整備すること

により、研究・教育機関の入居拡大、民間投資拡大を図り、同国初となる科学技術拠点都市の形成と経済成長促進・国際競争力強化に寄与するものです。

なお、本事業に対しては、第1期（2012年3月借款契約調印、152億1,800万円）の借款を供与済みあり、合計供与額は280億8,300万円となります。

JICAは今後とも、円借款、技術協力や無償資金協力などの多様なODAスキームを一体的に運用し、ベトナムの開発課題に対して機動的に取り組んでいく方針です。

## 「建設事業における積算管理、契約管理及び品質・安全管理能力向上プロジェクト」研修ワークショップの開催

国際協力機構（JICA）は、ベトナム国建設省との共催で、昨年続き、標題の第2回研修ワークショップをハノイ（6月16日）、ホーチミン（6月22日）、カントー（6月23日）の3市において開催し、関係省庁、各人民委員会の建設局・交通局、プロジェクト運営管理委員会（Project Management Unit：PMU）、大学関係者等、各市で約100人が参加しました。

本プロジェクトは、ベトナム国の公共工事の品質・安全管理能力に係る積算能力や施工業者・施工管理に係る評価能力などの強化を支援しています。今回のワークショップでは、JICA専門家から「工事評価制度実施マニュアル」、「建設業者の選定メカニズム案」と「契約管理・契約変更ガイドライン」について、建設省からは、「建設業者の技術評価手法」と「設計・調達・建設（EPC）契約」について発表を行いました。また、参加者に対して理解度チェックとアンケート調査を実施し、研修ワークショップの成果を数値化しました。

ワークショップは全3回を予定し、次回は、品質管理、安全管理、積算制度の成果について研修を行う予定です。ベトナム建設業界全体に係る制度が国際水準に近づくよう、引き続き、各事業分野でのマニュアルやガイドラインの導入、体制整備と人材能力強化を行っていきます。



第2回研修ワークショップ

## VJCC インスティテュート 第1期ハイフォン経営塾閉講式を実施

2017年6月27日、ハイフォン市において、第1期ハイフォン経営塾閉講式が行われました。経営塾とは、ベトナム日本人材開発インスティテュート（VJCC インスティテュート）が実施するベトナム産業界を牽引する経営者育成を目的とした長期研修コースです。昨年8月からハイフォン市からの委託を受け、新たに開講されました。

冒頭、ハイフォン市人材育成協会のトゥアン副会長から「塾生たちは、経験豊富な専門家から近代的な日本の企業経営の知識や考え方を学ぶことができた。また、実際に日系企業とのビジネスマッチングでは、数件のMOU締結が報告されている。経営塾の受講者数は、ハイフォンの企業数2万4000社に比べるとまだ微々たるものであり、今後も経営塾がハイ

フォンに普及することを期待している」と挨拶がありました。

続いて JICA ベトナム事務所の柿岡次長、貿易大学のトゥアン学長から 25 名の塾生に修了証書と記念のトロフィー、花束が授与されました。

その後、塾生を代表して、VIETNAM MARITIME SAFETY-NORTH のキエン副社長は、「経営塾を通じ、日本、日本人及び日本の商習慣について理解することができた。また、日本企業の社会貢献の理念に驚いた。経営塾での学びを自社の経営戦略および企業文化づくりに生かし、日本とのさらなる連携強化にもつなげていきたい」と謝辞を述べました。

ハイフォン市人民委員会のビン副委員長は「ハイフォンと日本の地方都市との協力は、JICA のお陰でより強固になった。JICA に心より感謝したい。ハイフォンの発展に経営塾は欠かせない存在。これからも優秀な経営者

を生み出す中心的な役割を果たしてほしい」と今後の展望を語りました。

ベトナムのさらなる経済発展に向けて、第 1 期ハイフォン経営塾修了生 25 名の今後の活躍が期待されま



第 1 期ハイフォン経営塾塾生 25 名と関係者の閉講式

## 第 5 回日越大学公開講座 特別講演実施

6 月 16 日、日越大学 (VJU) にて、東急電鉄越村敏昭相談役による特別講演が行われました。本講演は、有識者を講師に招いた「日越大学公開講座シリーズ」を構成するもので、第 5 回目の今回は、「日本企業が日越大学の卒業生に求める人材像とは」と題し、日越友好議員連盟武部特別顧問、在越日本大使館永井公使、国際協力機構 (JICA) らが出席しました。

講演前半で、越村氏は、日本の社会経済の移り変わりとともに変化してきた東急の事業戦略について触れ、日本企業が日越大学の卒業生に求める人材像については、

「強い者でもなく、賢い者でもなく、変化に対応できる者」と述べました。また、「あらゆる事象に興味関心をもち、レベルを高めていくことで、刻々と変化する環境に適応し、リベラルアーツに裏付けられた強靱さを身に付け、日越間の政治・経済のキーパーソンとして立派な働きをされることを期待する」と学生を激励されました。

JICA は日越大学に対し、2015 年 4 月に、5 年間の技術協力「日越大学修士課程設立プロジェクト」を通じ支援を実施しています。

その他

## ボランティア総会・2017 年度 1 次隊 7 名の着任

### ボランティア総会

ボランティア総会 6 月 27 日、28 日の 2 日間に亘り、ボランティア中間・帰国報告会が実施されました。

本報告会では、赴任後 1 年目にあたる 28 年度 1 次隊 7 名が中間報告を、帰国を間近に控えた 26 年度 2 次隊 2 名、および 27 年度 1 次隊 6 名が帰国報告を行いました。中間報告では任期の折り返し地点に至るまでの活動の振り返り、今後 1 年の計画について各自、発表を行いました。また、自身のボランティア活動を総括する帰国報告では、周囲の人々に与えたインパクトや活動から得られたものについて発表しました。聴講者として参加した大使館や国際交流基金の方々、専門家やボランティアからコメントや質疑応答があり、活動における課題や解決に向けた地道な努力など、普段は見えにくい部分を共有するとともに、外部の方にはボランティア活動を知って頂く良い機会となりました。

### ボランティア着任

7 月 4 日、2017 年度 1 次隊 7 名が着任しました。それぞれの職種・活動先は右記の通りです。今回は、日本語教語育や空手道に加えて、日本料理の指導 (家政・生活改善)、日本文化の紹介 (青少年活動) 等、日本の生活や文化に関わる協力が多く、また、昨今問題になっ

ている「食の安全」に取り組むべく、食品分析分野への協力 (化学・応用科学) も開始したことが大きな特長です。5 日間の JICA 事務所でのオリエンテーション後、シニア海外ボランティアは約 1 週間、青年海外協力隊は約 5 週間にわたる現地語学訓練をハノイ、ダナン、ホーチミン市に分かれて受講し、8 月中旬にはそれぞれの任地で活動を開始します。

### ●青年海外協力隊

日本語教育/ハノイ市  
家政・生活改善/ハイフォン市  
青少年活動/ハイフォン市  
障害児・者支援/ダナン市  
建築/ホイアン市  
空手道/カントー市

### ●シニア海外ボランティア

化学・応用科学/ホーチミン市



帰国報告会

# ベトナム国家農業大学での「コメ」の授業

6月27日、ベトナム国立農業大学副学長のクオン先生が、ハノイ日本人学校の5年生児童に「コメ」に関する授業を行いました。児童は、①コメのルーツ、②コメの発芽から収穫までの生育状況、③ベトナムと日本の稲作の違いについて学び、試験圃場での田植えや脱穀も見学しました。児童からは次々に質問があり、試験圃場では目を輝かせて田植えや脱穀を手伝うなど、活発な授業が行われました。

同大学は、1990年代から九州大学を筆頭に、本邦の大学が教育交流協定を結び、留学生の受入や文部科学省科学研究費による共同研究がおこなわれてきました。また、1998年～2004年にJICAの大学強化支援により、イネのベトナム国産第一号となる品種開発を達成したほか、2006年～2008年には日本学術振興会が、農業資材低投入型のイネの品種開発を実施。2010年～2015年にかけては、JICA-JSTによる最先端次世代育種技術が導入され、

国内唯一といえる作物系分析能力と分析基盤が確立されています。ベトナムの農業、とりわけイネの研究においては、ベトナムのみならずアセアン地域において随一の大学となっています。

また、副学長のクオン先生は1998年から日本に留学し、博士号を取得されました。同大学の学長、各学部長や博士号保有者の多くも、日本で学位を取得しており、日本と関係が深い親日家の先生方が多い大学となっています。

今回、日本との関係が深い同大学において、日本で学んだベトナムの研究者たちが、その恩返しとして日本の子供たちに無償で授業を行う光景は、長い国際交流、開発支援の成果の一端を感じるひと時となりました。

JICAベトナム事務所では、本月報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、Yagi-Noriko@jica.go.jp までお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行：JICAベトナム事務所 広報班